

海岸清掃活動にあたって

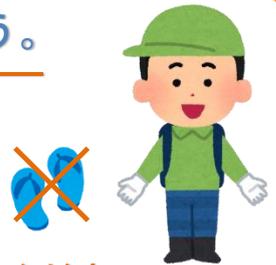
安全に気持ちよく作業するために知っておきたいこと

海岸漂着物の中には街中とは異なる注意が必要なごみが見られます。

海岸漂着物	注意点
内容物不明の液体が入った容器 (ポリタンク、ペットボトルなど)	素手でふれない。ふたを開けない。
カセットガスボンベ、スプレー缶	劣化や高温など条件がそろえば破裂の危険がある。
消火器、大型のガスボンベ	ふれずに清掃主催者等に知らせる。
医療系廃棄物（薬びん、注射器）	素手でふれない。ふたを開けない。
ライター、電球などの割れ物	処分の時に危ないので、分別して回収する。
ガラス片、ルアーの針、木材にささった釘など	素肌が出ていない動きやすい靴、手袋をして作業をする。

安全のための服装・持ち物を確認しましょう。

- 肌が出ているとケガをしやすくなるので、長袖・長ズボンを着用しましょう。
- 手袋をして回収作業をしましょう。
- 足を包み込む動きやすい靴をはき、サンダルや素足はさけてください。
- 季節によって、暑さ対策、防寒対策をとってください。特に夏場は熱中症予防のため、帽子をかぶり、こまめに水分をとるようにしてください。



山口県の海岸はグローバル!?

山口県は三方が海に開け、全国で6番目の長い海岸線があります。海岸漂着物の種類や量は響灘、日本海、瀬戸内海の海域によって違いがあり、特に響灘、日本海側の海岸では国内だけでなく、外国由来の漂着物が多く見られます。液体が入ったペットボトルをラベルなどから国別に調査した結果、特に日本海に面した海岸のペットボトルには様々な国のものがありました。身近な海岸や漂着ごみに関心をもって見ると、新たな発見があるかもしれません。

長門市大浦海岸に漂着したペットボトルには、国内の他、中国、韓国、ロシア、マレーシア、ベトナム、インドネシアのものがありました。

ちょっと休憩

元はごみでも

シーグラスまたはビーチグラスを聞いたことがありますか？ガラスびんなどの破片が波にもまれるうちに角がとれてすりガラス状のかけらになったもので、その美しさからアクセサリやインテリアなどの材料として楽しまれています。そんなシーグラスですが、元々はそう、漂着ごみです。海岸清掃の時には、宝探しの気分で探してみるのも楽しいですよ。



山口県の海岸で見られる漂着危険物

こんなものには気をつけよう！



薬品や液体の入った容器

ポリタンク



- 一番多く見られるのは青いポリタンクですが、他にも色々な色や形のポリタンクが漂着しています。
- ふたが閉まり、中に液体が入っている場合は、**化学薬品や灯油などの油**が入っている場合があります。
- ふたを開けて中の有害な化学物質にふれたり、強い油臭を吸い込んだりすると、やけどをしたり、気分が悪くなる場合があります。

ペットボトルやびんの飲料容器



- ペットボトルなどの飲料容器は代表的な漂着物になります。中にはふたが閉まり、液体が入っているものも多く見られます。
- 内容物を調べると、元々の飲料が入っていたり、海水や水が入っていることもあります。たばこの吸い殻や尿などが入っている場合があります。
- ラベルとは異なるものが入っている場合があるので、**見慣れた飲料のペットボトルでも開けないようしましょう。**

家庭用洗剤や除草剤など

- 家庭用の漂白剤や除草剤などの容器**に液体が入ったまま漂着していることがあります。
- 洗剤や農薬など容器の形状やラベルから製品が予想できるものにも注意し、**素手で触らない、ふたを開けない**ようにしましょう。



ONE FOR OCEAN

県では、海洋プラスチックごみ問題をたくさんの方に知ってもらい、その対策に取り組んでもらうため、市町、企業と連携し、海岸清掃の際に回収される海洋プラスチックごみを使ったアップサイクル（新たな価値あるものにリサイクルすること。）製品を活用して、普及啓発に繋げるプロジェクトを進めています。

海岸清掃で集まった海洋プラスチックを原料に新たな価値を持った「アップサイクル買い物かご」へ生まれ変わって、私たちの生活に役立っています。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/40/101735.html>



山口県の海岸で見られる漂着危険物

こんなものには気をつけよう！



高圧ガス

カセットガスボンベやスプレー缶



海岸で破裂したスプレー缶

- カセットガスボンベやスプレー缶はよく見られる海岸漂着物のひとつです。
- 危険？と思われるかもしれませんが、海水などによる腐食が進んだ状態で浜辺の高温が加わると内部の圧力に耐え切れなくなり、**破裂する危険**がありますので、取り扱いに注意してください。
- すでに劣化して穴があいているような場合は心配ありません。

消火器、大型ガスボンベ



- 事例は少ないですが、**消火器や大型のガスボンベ**の漂着も見られます。
- ガスが入っている状態で劣化が進み、高温などの条件がそろえば**爆発する危険**がありますので、さわらずに清掃主催者等に伝えてください。

医療系廃棄物



- 医療系廃棄物として**注射器や薬びん**が見られます。
- 写真の注射器は針がありませんでしたが、針がついた注射器はほかの、**感染被害のおそれ**もあります。
- むやみにさわったり、開けたりしないようにしてください。

その他にも

- 小さくて見過ごしがちですが、危ないものに**ルアーの針やガラス片、木材に刺さった釘**があります。
- 蛍光灯や電球**が漂着している場合、割れないように注意し、**分別して回収**するようにしましょう。

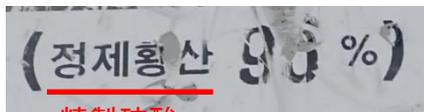


- ガラス片や釣り針などでうっかりケガをしないように**必ず手袋**をして注意して回収しましょう。
- 使い捨てのライター**はよく見られる漂着物の一つです。中にガスが残っている場合は処分の際に引火の危険がありますので、**分別して回収**するようにしましょう。

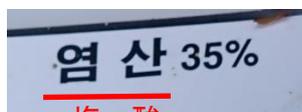
漂着物の表示あれこれ

ポリタンクの表示

特に日本海側に多く漂着が見られるポリタンクですが、色々な色や形をしています。本体やラベルに表示があるものが多いですが、ポリタンクについては外国由来のものがほとんどですので、外国語で書かれています。これらは、これまで山口県の日本海側、響灘側の海岸に漂着したポリタンクに見られた表示です。



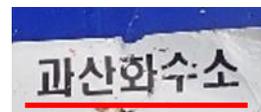
精製硫酸



塩酸



硝酸



過酸化水素



ぎ酸



過酸化水素



漂着したポリタンクの多くは空だったり、海水が入ったりしたのですが、中には強酸性を示す有害なものが残っている場合があります。

有害性を示す中身が残っている場合は、元々入っていたものが残っている可能性が高いので、表示はとても重要な情報になります。

絵表示にも注目

出典：環境省 <https://www.env.go.jp/chemi/ghs/pamphlet.html>

漂着したポリタンクやポリ容器にこのような絵表示が見られる場合があります。これは、GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals : 世界的に統一された分類・表示により化学品の危険有害性を分かりやすくすることを目的とした仕組み) に基づく表示であり、化学品の危険有害性が絵表示で示されているため、漂着物に書いてある外国語がわからない場合でも、その有害危険性に気づき、内容物の取り扱いに注意を払うことができます。



위험
危険

漂着したポリタンクに見られた GHS 表示



ペットボトルの表示

ペットボトルのラベルには多くの情報があります。言語はもちろん、バーコードが残っていたら、最初の2桁（国によっては3桁）の国コードを見れば、どこの国から来たかわかります。例えば、日本の国コードは45または49ですので、身近な商品で見てみてください。

漂着物の中にはラベルのないペットボトルも多くあります。しかし、キャップや本体から出身がわかる場合もあります。実際に海岸にはラベルはなくてもキャップから商品がわかるものが多くあります。外国由来のペットボトルにも、キャップに言語表記があるものがありますし、本体に印字されている情報もあります。例えば、ペットボトル本体に印字された NSX、HSD という文字はベトナム語の省略形で NSX が製造日、HSD が賞味期限を表しています。

このように、ラベル、キャップ、本体からの情報により、ほとんどの場合、漂着したペットボトルがどこの国のものかはわかります。

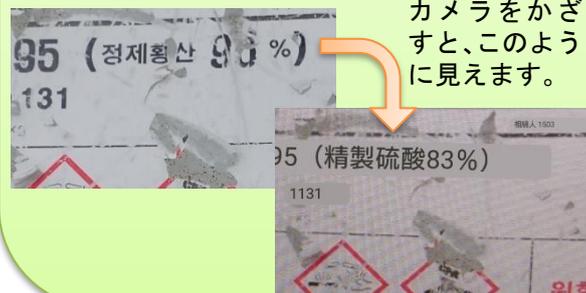


ペットボトル本体の印字

翻訳アプリを使って見よう



海岸に漂着した外国由来の外国語表記のもの。なにが書いてあるのだろう?と思った時には、スマートフォンなどのカメラをかざすだけで翻訳することができるアプリを利用すると便利です。ラベルの状態などで完璧にはいかないこともありますが、すぐに情報を得ることができます。



カメラをかざすと、このように見えます。